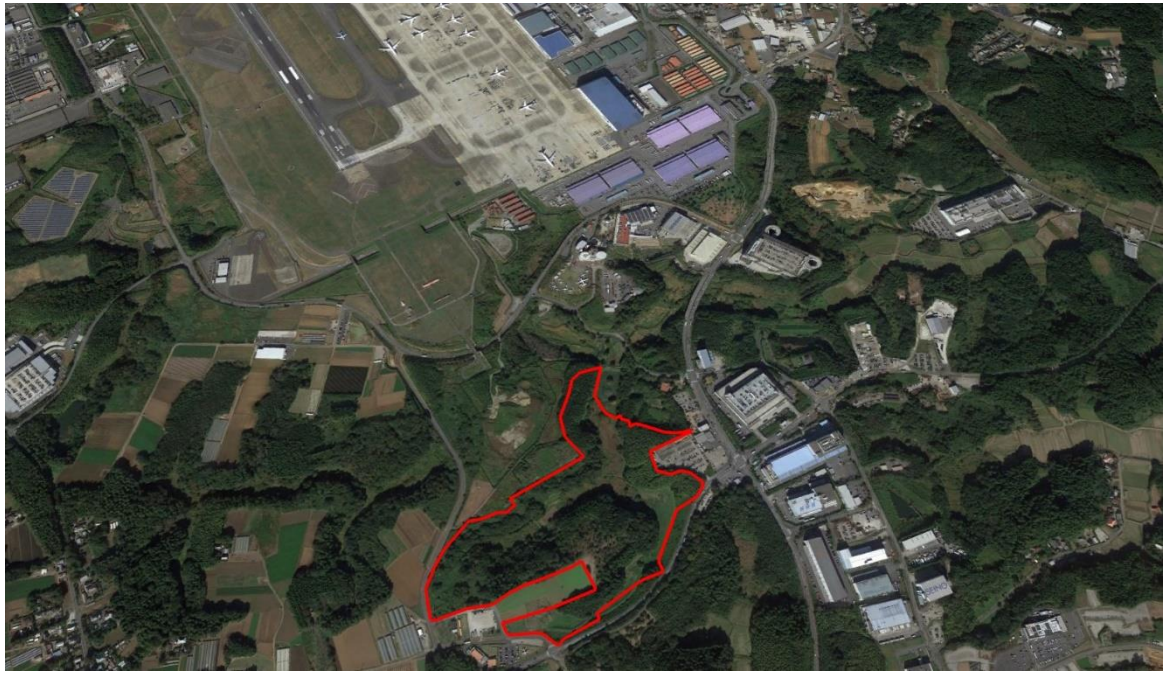
場所・面積　千葉県山武郡芝山町、15.7 ha

管理目的　地域に残された里山景観の維持や生物多様性を維持するとともに、地域住民の憩いの場、環境教育の場として提供すること。

サイト概要　当サイトは、千葉県芝山町に位置し、成田国際空港株式会社が所有する多くの騒音対策用地を有効活用するために計画された。空港のA滑走路南側に位置し、芝山町岩山地区「芝山水辺の里」の上流部に位置する18.5haの自然体験型公園である。（共生サイトとして申請するのは駐車場と花畑を除いた15.7ha）使用されなくなった農地の活用や里山景観の復元を目指しつつ、生物多様性を充実させるため、維持管理作業にも様々な実験的な取り組みを行っている。

土地利用の変遷　空港周辺の騒音用地を活用するため、成田国際空港株式会社が当サイトを「自然体験型公園」として整備することとなった。水田跡地を含む谷津地形を利用し、水田の復活や畔・水路等整備した。水田跡地からため池を造成し、水を確保するとともに、ビオトープとしても活用した。約3kmにわたる園路は旧農道を活用し、斜面に木製階段等を設置することで、公園全体を回遊できるよう整備した。



サイト周辺の環境　当サイトの北側には空港のA滑走路があり、西側と北側には山林及び田畑が広がっている。東側は手前に物流施設が数棟あるが、周辺には、山林や田畑がみられる。隣接地には、第三セクターにより、空の駅「風和里しばやま」(空港南側農産物直売所)が営業している。

アピールポイント　草刈等の維持管理の主体は成田国際空港株式会社が担うが、地元NPOと連携しサイト内の里山の再生に取り組んでいる。
2022年には両生類等の保全を目的として復田を実施した。
空港の更なる機能強化(C滑走路の新設)に伴い、環境影響評価を実施しているが、当サイトは改変区域からの希少生物の移設先の1つとなっている。

生物多様性の価値

価値（3）里地里山といった二次的な自然環境に特徴的な生態系が存する場

【場の概況】
・谷津環境を含む公園となっている。陽が入り明るい雑木林や斜面林、湿地やため池などからなる。

【主な植生】
・谷部にはヨシ群落が広がっているほか、アカメヤナギ群落や開放水面も見られる。また、乾燥化が進行しているところはセイタカアワダチソウ群落やクズ群落になっている。
・南側中央部の斜面には、管理されたシラカシ群落やコナラ群落がある。斜面上部の平坦地は、サクラ類の植栽樹群となっている。
・西部にはクズ群落、セイタカアワダチソウ群落、オギ群落などの乾生草地が広がっている。
・管理され林床が荒れていない為、大型菌類が豊富。

【確認された主な動植物】
維管束植物：環境省レッドリスト2020における絶滅危惧種2種、準絶滅危惧種2種が確認されているほか、千葉県レッドリストー植物・菌類編（2017年改定版）に記載の種10種が確認されている。
両生類：ニホンアカガエル、アズマヒキガエルの千葉県レッドリストー動物編（2019年改訂版）に記載の種２種が確認されている。
昆虫類：チョウトンボ、ヘイケボタル、オナガアゲハ等、千葉県レッドリストー動物編（2019年改訂版）に記載の種17種が確認されている。
陸産貝類：チュウゼンジギセル、ウメムラシタラガイ等、千葉県レッドリストー動物編（2019年改訂版）に記載の種5種が確認されている。



写真の撮影年月：20230807
写真の説明：ニホンアカガエル



写真の撮影年月：20200803
写真の説明：チョウトンボ

サイトの管理計画・モニタリング計画

管理計画の内容

①管理計画

・別紙維持管理図面に記載のとおり、年間を通して草刈りを実施している。
・維持管理は地元の草刈業者に委託している。
・植物や利用する動物の生態に合わせ、草刈り時期は微調整している。
・維持作業前に管理者と作業者合同で現地を踏査し、希少生物の位置の確認・マーキングを行い、草刈り方法等配慮する。
・倒木や園路の破損などが発生した場合、極力生態系に配慮し、改変域を最小とする。
・NPO成田・里山を育てる会の活動（月1回実施）において間伐、草刈り作業を別途実施しており、管理者も不定期に参加し情報交換等をしている。
・外来生物調査（アライグマ生息調査・アメリカザリガニ駆除）を不定期で実施している。

モニタリング計画の内容

②モニタリング計画

【モニタリング対象】
1.両生類（ニホンアカガエル・アズマヒキガエル等）
2.陸産貝類（チュウゼンジギセル・ウメムラシタラガイ等）
3.維管束植物

【モニタリング場所】
サイト内

【モニタリング手法、実施頻度】
任意踏査・任意観察
おおむね5年おき

【 実 施 体 制 】
調査会社に委託
NPOとの合同調査